自衛隊体育学校
アジア大会（9.19 ～ 10.4）応援特別号

仁川アジア大会開幕

体育学校メダル1号は坂本2曹の銀メダル

メダルを手にする坂本２曹（右）

坂本２曹の鋭い剣が韓国選手に突き刺さる

アジア大会開幕

9月19日仁川市仁川競技場で第17回アジア競技大会（2014／仁川）開会式が行われた。今大会は45の国や地域から約1万人の選手が10月4日まで、36競技、439種目で熱戦を繰り広げ、日本からは選手712名に役員等を加え1069名の史上2番目の巨大な選手団が参加する。

フェンシング

アジア大会5日目、9月23日フェンシング男子エペ団体に坂本圭右2等陸曹が出場した。日本チームは1回戦でカタールに45対25、準々決勝イランに45対35、準決勝で強豪カザフスタンに45対37で勝ち抜け決勝に進出。決勝では今年の世界選手権団体準優勝の韓国と対戦し、21対25で敗れ、前回広州アジア大会の銅メダルを上回る銀メダルを獲得。坂本は12戦9勝1敗2分けと日本の銀メダルの原動力となった。エペは日本が世界との距離を感じる競技だっただけに強豪国を破っての準優勝はリオに向け大きな前進と言えるだろう。特にオリンピックでも団体があるので、団体で出場できればメダルも夢ではないことを今回証明したと言える。

原田2海尉リレー銀メダル

スタート前に気合いを入れる原田２海尉

水泳

アジア大会6日目、9月24日水泳競泳競技100m×4自由形リレーで日本チームは3分14秒38の日本新記録を樹立したが、3分13秒47のアジア新記録を出した中国チームに敗れ、準優勝銀メダルとなった。決勝では日本チームは第1泳者に塩浦慎理選手、第2泳者に自衛隊体育学校の原田蘭丸2等海尉、第3泳者に藤井拓郎選手、アンカー第4泳者に中村克選手というラインナップで臨む。第1泳者の塩浦選手がトップに躍り出て、49秒03で第2泳者原田に引き継ぐ。原田は厳しく追い上げられながらも、トップを維持し、48秒49という好タイムで第3泳者の藤井選手に引き継いだ。藤井選手が48秒92で泳いだものの中国選手に僅差で抜かれ、第4泳者の中村選手が47秒94という好タイムで泳いだが、中国第3、第4泳者の連続47秒08という怒濤の泳ぎに追いつくことができなかった。だが日本チームが出した3分14秒38は2009年の東アジア大会で自衛隊体育学校にいる山元啓照2等海曹等の日本代表チームの記録を更新するものだ。原田は前回の広州アジア大会でのこの種目では、決勝で49秒16の記録だったが、今回は48秒台を出し、4年間の進化を証明した。

射撃

アジア大会9日目、9月27日ライフル射撃50m3姿勢120発に山下敏和1等陸尉、松本崇志2等陸尉、谷島緑2等陸曹の3人が出場し、予選に参加した記録の合計で競う団体で3位銅メダルを獲得。山下は合計1167点で予選3位、ファイナル進出を果たした。谷島は合計1160点10位。松本は合計1154点18位。日本の合計は3481点となり、4位のインドに対してわずかに1点上回り、3位銅メダルが確定した。ファイナルに進出した山下は、最終成績420・6、5位入賞を果たした。

射撃3姿勢団体銅メダル

谷島２曹　山下１尉　松本２尉